

「命の大切さ」

松茂小学校 五年 木下 由羽里

私は、交通事故を防ぐためにうったえたいことがあります。私のお父さんは赤ちゃんのときに、私のおばあちゃん、お父さんにとってお母さんが運転していた車に乗っていたときに交通事故にあいました。

今回あらためておばあちゃんに聞きました。その車には、お父さんの兄弟が五人乗っていました。その事故は大きな事故だったそうです。横にすわっていたお父さんのお兄ちゃんは、事故のしやうげきでフロントガラスがわれてガラスが顔にささったり、切ったりしたために顔が血だらけだったみたいです。他の兄弟も大きなけがを負いました。私のお父さんは当時まだ0才でした。お父さんは車から投げ出されて大きなけがをしてしまい、お父さんは障がい者2級の手帳を持っています。当時はチャイルドシートのぎむ化がされていなかったことにとってもおどろきました。チャイルドシートやシートベルトは自分の命を守るために大切なことだと、あらためて思い知りました。

お父さんは一生障がいと向き合い、色々なことを乗りこえて今がありますが、その交通事故がなければ、体に障がいを負うことがなかっただろうと思うだけで、とても悲しい気持ちになりました。

お父さんの体は、一生障がいと向き合う体になってしまいましたが、一人一人の運転を気をつけることで、交通事故を防ぐことができると思います。私は、障がいから向き合って強く生きているお父さんをととてもそんけいしています。

運転している人の心がけで事故ゼロをめざすことで、だれも悲しい思いをせず、笑顔でいられるはずです。毎日ニュースで交通事故の話を耳にします。高れい者の運転問題や、小さい子どもやお年よりの事故をどう防ぐことができるのか真けんに考えました。一人一人の心がけです。交通事故でのいたましいニュースを見たり聞いたりすると、とても心が痛みます。

今回おばあちゃんの話聞いていた中でずっと口にしていた言葉があります。それは「後かい」の言葉を何度も口にしていました。後かいしても後にはもどれないことは、どれだけおそろしいことだと思いました。事故をすることで、その本人やその家族や周りの人が一生苦しみや悲しみをせ負うこと、人生をくるわせるかもしれないということをみんなに分かって運転してほしいと願います。

私は、大切な家族のお父さんが事故で障がい者になってしまったからこそうったえたい一言があります。

「一しゅんの事故がその人の一生を変えてしまうことを。」